



まちで
発見!

多久の歴史

前多久家から後多久家へ

天文13年(1544)、★①龍造寺周家 が率いる軍の攻撃により、鎌倉幕府の御家人、「多久太郎宗直」が築いた梶峰城を攻略し、鎌倉以来342年続いた前多久家は邑主としての地位を失いました。(この時、相浦宗尚・土橋式部ら多くの土着の士が味方になった)

多久崩れ

翌14年、梶峰城に在った龍造寺周家らを有馬勢が攻め寄せ、龍造寺勢は一族数百人が志久峠にて防ぎ戦うこと三日に及んだが力尽き夜陰に隠れて敗走しました。これを多久崩れといいます。

水江事略(水ヶ江龍造寺の事蹟記) 抜粋

「有馬勢兵ヲマトメテ女山ニ陣ス、船山、八幡岳ノ山々軍勢ナラザル処ナク、篝火幾百ト云ヲ知ラス、城中ハ甚微勢ニシテ此ママ敵強ニ当リ難ク、終ニ夜ニ紛レテ城出」

丹坂合戦

永禄5年(1562)冬、豊後の大友義鎮は小式家を再興せんと、有馬氏、松浦党、★②多久上野守宗利 多久上野守宗利(下多久城主)等、肥前の諸将に呼び掛け、その軍兵を合わせて、龍造寺を攻め滅ぼし、小式家をたてんと企てた。緒戦は劣勢の場面もあったが、同年7月、★③龍造寺隆信 が龍造寺隆信はこの敗勢を盛り返すべく弟たちや鍋島信房等を従え自ら出馬、丹坂(現小城町三里)に陣を構えた。その攻防は牛津川を境に両軍入り乱れて相戦い、初戦は有馬勢が切り勝ち西郷(三里西川宿)まで攻め入ったが、龍造寺勢も激しく戦い、ついには有馬勢を丹坂峠を越えて右原へ追い詰め敗走させた。この戦いで有馬氏に味方した土着の武士のうち、西の原の田代刑部少輔は討死、羽佐間の田中土佐守は羽佐間へ引いた。かくし

て、龍造寺勢は勢を駆って別府を通り梶峰城を攻め落とす。

その後、隆信は梶峰城に龍造寺長信を置き、南に有馬・平井・後藤、西に伊万里・山代・大河野、北に波多・松浦・鶴田氏ら大敵に囲まれる中でこれを守った。



龍造寺隆信の肖像▲

肥前分け目の合戦

丹坂峠の戦い

有馬 義貞(島原)	龍造寺 隆信(佐賀)
西郷 純尚(諫早)	鍋島 直茂(佐賀)
大村 純忠(大村)	納富 信景(佐賀)
後藤 貴明(武雄)	小河 信友(佐賀)
平井 経治(白石)	千葉 胤連(小城)
多久 宗利(多久)	徳島・鴨打・持永(小城)



長信の多久支配

元亀元年(1570)龍造寺氏を討つため、大友宗麟は再度佐賀に侵入してきた。龍造寺長信はこの戦いで多くの軍功をあげた。龍造寺隆信はこれを多いに喜び長信に多久の地を与え、梶峰城主とした。これが、水ヶ江龍造寺第4世長信の多久支配の始まりである。



龍造寺長信の肖像▲

- ★① 龍造寺長信の実父
- ★② 前多久家14代宗時の子(有馬家の身を寄せていた)
- ★③ 龍造寺周家の子、龍造寺長信の実兄(肥前の熊と言われた)

UDFONT

耳や舌で読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に優しい植物油
インキを使用しています。

全国市議会 議長会より表彰

- | | | |
|-----------|-------|-------|
| 特別表彰(20年) | 飯守 康洋 | 野北 悟 |
| 一般表彰(15年) | 國信 好永 | 平間 智治 |



議長会広報委員会	委員長 榊島 永二郎	副委員長 鷺崎 義彦
委員	田淵 厚	小川 香月
	平間 智治	三郎 正則

